

阿波踊りの動きの多様化とその要因

—その2—

中村 久子

【研究の目的と方法】

戦後の阿波踊りは、洗練された動きを追求し、動きを揃えて踊るだけでなく、動きを多様に変化させたり、群を意識して踊る等、見られることを意識して発展してきた¹⁾。地域に生まれた盆踊りに、このように多様な動きの変化が生まれてきたのには①振りが単純で動きの一まとまりが短いこと、②囃子のリズムは生き生きとした三連符の変形であるが、踊りのリズムが単純な二拍子であること、③踊りの形態が行進型であること、④踊りを踊る集団が伴奏音楽を受け持つ集団と共に行動すること等、阿波踊りそのものに起因する要因が考えられる²⁾。

しかし、徳島県には阿波踊りによく似ているといわれる民踊（盆踊り）が幾つか存在しており、それらには阿波踊りのように多様な動きの変化は見られない。このことは、阿波踊りの動きの多様化が踊りそのものに起因する要因のみでなく、阿波踊りを取り巻く環境にも起因することを示唆している。

そこで、阿波踊りの動きに多様な変化をもたらしたと考えられる外的要因について文献により考察することにした。

【研究の結果と考察】

1. 終戦後の阿波踊り競演会場の役割

戦後五、六年間に盆踊りをもりあげるために考え出されたものの一つは踊りの審査会を開催することであった。それは後に、競演会と名を変えて、踊りの競演の場を提供した³⁾。表1に見られるように、競演会場は昭和26年までに各地に増え続け、その規模は大型化した。その後、競演会の是非が問われることになり、棧敷席をもつ競演会場の廃止論が高まったため、昭和27～29年の間には競演会場を設営しないこととなった。

その理由としては、主として次の二点が挙げられている。

- ①踊り連が充分に育成されたことから、賞等を出して踊り子を集める必要が無くなった。
- ②棧敷席があることでショー化された踊りよりも、昔のように流して踊るほうが風情がある。

しかし、数年間の廃止後、棧敷席をもった競演会場は昭和30年に演舞場と名を改めて、市内七か所に復活した。その理由としては、主に次の三点が考えられる。

表1 新聞記事に見られる阿波踊りの競演会場とその主催・後援団体

(S. 21年-S. 26年)

年	主催	会場名
S. 21	国際親善協会	一盆踊り大会
S. 22	両国本通り商店会連盟	盆踊り審査会
S. 23		両国橋通り審査場 かごや町審査場
S. 24	県商工会議所、徳島新聞社後援	元町大競演場
前期	西徳島商店街連盟、若潮文化倶楽部主催	
後期	県商工会議所、徳島新聞社後援	蔵本駅前大競演場
	徳島県、徳島市、徳島市商店連	
	四国鉄道局、交通公社四国支社	
S. 25	徳島市 県商工会議所 県観光協会	元町競演場 蔵本競演場 両国競演場 吉野本町競演場 福島競演場 東新町競演場
S. 26	徳島繁栄連盟 徳島市 共催 徳島新聞社後援	内町競演場 蔵本競演場 紺屋町競演場 新町競演場 両国競演場 福島明神町競演場 二軒屋競演場 津田競演場 蔵本元町競演場 佐古駅前競演場 庄町競演場

①公安の立場からは、大勢の観光客や見物客が集まるので、治安の維持のために踊るゾーンを決めたほうが安全である。

②見物客の立場からは、踊る人と見る人が同じ高さでは見にくい。

③踊り手の立場からは、見物客に押されたりしては思う存分に踊れない。

ともあれ、審査場から競演会場へ、さらに演舞場へと名を変えながらも棧敷席が存在したことは、踊る人と見る人を分けることにつながり、踊る人に見られているという意識を持たせることになった。徳島新聞の記事⁴⁾に「昭和26年頃から演出が加えられるようになったり、衣装も豪華にショウ化した阿波踊り」と書かれていることから踊り子たちが観客の目を意識して踊っていたことは明らかである。

その後、競演会場が演舞場と名を変えて存在したが、見られているという意識を踊り子達にもたせたことは、彼らが踊りを練習し、動きを洗練させることや動きを揃えて踊ること、さらに、動きを多様に変化させて、見る人を楽しませようとする事につながった。

2. 競演会に提供された賞品、賞金の役割

当時、審査場、競演会場に多くの踊り子を集めるためには会場を設営するだけでなく、賞品や賞

金を提供することが効果的であると考えられた。そこで、競演会場を設営した商工団体のみでなく、県、市のような行政からも阿波踊りを奨励する意味で各種の賞が与えられた。優秀な団体や踊り子が賞を得るだけでなく、数ヶ所の競演場で踊った人の中から抽選で賞金が当たるなどという「当たりくじ」のような賞も考え出されて、多くの踊り子や見物客を集めた。

昭和25年には「無審査組」として四団体が選奨され、昭和26年には、五団体が「無審査組」として、32団体が「優秀団体」として表彰されている。このように、優秀な踊り子や団体には賞品や賞金のみでなく名誉も与えられた。

踊りを審査し、賞品、賞金、賞状を提供することによって、多くの踊り子を集めただけでなく、翌年の盆踊りに向けて踊りを練習する人々を増加させることとなった。踊り子たちは見栄えをよくするために、衣装を揃えたり、踊りの手振りを揃えたりしたので、踊りのレベルアップにつながった⁵⁾。さらに、多くの連(踊りのグループ)が結成され、徳島新聞によると、昭和25年には百連になったと記載されている⁶⁾。

これらのことから、競演会に提供された賞品、賞金及び賞状等が多くの踊り子たちを引きつけ、その踊りのレベルアップに一役買ったことは明かである。

3. 阿波踊りを支えた人々の役割

多くの阿波踊り見物客や観光客が増えるということは、あまり観光資源に恵まれない都市にとっては、喜ばしいことであり、阿波踊りは大いに宣伝する価値のあるものとなった。表1に見られるように主催・後援した団体は県、市、観光協会、商工会議所、商店街、交通局等、人が移動し、集まることによって潤う団体が主となっている。彼らは競演会場を設営することによって、踊り手のみならず、多くの見物客、言い換えれば、買い物客が集まることを期待して、競演会場の設営を経済的に支えたのである。阿波踊りの経済効果に目をつけた行政や商工団体により阿波踊りが支えられてきたといえる。

徳島新聞の記事⁷⁾に「明治時代には踊りの空気が非常に悪くなったというので県庁から三回にわたって禁止されたことがある。ところがいまではその県庁まで踊り子連をくり出している。変われば変わるものだ」という発言が掲載されていることから、行政の阿波踊りに対する姿勢の変化を理解することができよう。このように、徳島の盆踊りにはそれを裏で支える人々の存在が大きな役割を果たしたが、他地域の踊りにはこれほどの支えは存在しなかった。

行政や商工団体が踊りを観光の目玉にしたいと希望し、盆踊りを育てた結果、踊り子たちはそれ

に答えようと日々練習に励み、多様な動きの変化を生み出したのである。

4. 徳島の地の利

すでに述べたように、徳島市の盆踊りが他地域の盆踊りと比較して、多くの団体に支えられたのは何故であろうか。それは、多くの観光客等を受け入れることのできる地の利にある。徳島の盆踊りが多くの支援を得たのは、多くの商店街を抱えていた徳島市が、県下最多の人口をかかえる県庁所在地であり、三本の路線が一ヶ所に集まるところに位置することによる交通の利便性等も無視することはできない。

5. まとめ

阿波踊りの動きの多様化の外的要因をまとめると次のようになる。

- 1) 戦後に生まれた審査場、競演会場から現在の演舞場に至るまで踊りの競演の場が存在したこと。
- 2) 競演の場に多くの人を集めるための努力がなされていたこと。
- 3) 競演会場等の設営を支援した多くの団体が存在し、踊りの育成をしようとしたこと。
- 4) 徳島市は徳島県の県庁所在地であり、県下の交通の要所であるという地の利をもっていたので支援する団体に恵まれたこと。

阿波踊り振興協会、阿波踊り協会に所属している連の踊りには、練習の成果ともいえる動きの洗練、動きの統一、動きの多様な変化等が見られる。ところが、協会に非所属の連の中にも、協会所属の連と同様に練習を重ねて、動きを洗練させ、統一させ、多様な変化をつけて踊る連も存在する⁸⁾。動きの多様化が、阿波踊りそのものの特徴によってもたらされただけではなく、阿波踊りを取り囲む環境によってもたらされたといえよう。

参考文献

- 1) 中村久子(1991):阿波踊りにおける動きの多様化について—その1—,徳島大学総合科学部健康科学紀要第3巻,1—18.
- 2) 中村久子(1994):阿波踊りの動きの多様化とその要因—その1—,舞踊学第17号,68—69.
- 3) 中村久子(1993):新聞記事に見る戦後の阿波踊り—演舞場の成立を中心に—,徳島大学総合科学部健康科学紀要第5巻,15—31.
- 4) 徳島新聞記事(1955.8.12):姿・形は変われども,徳島新聞社
- 5) 中村久子(1993):新聞記事に見る戦後の阿波踊り—戦後の阿波踊りを支えたもの—,徳島大学総合科学部人間科学研究第1巻,1—11.
- 6) 徳島新聞記事(1955.8.12):徳島十年⑧阿波踊り,徳島新聞社
- 7) 徳島新聞記事(1952.9.9):「阿波踊り」両あほう座談会下,徳島新聞社
- 8) 中村久子(1994):阿波踊りにおける多様性について—協会所属の連と非所属の連を比較して—,舞踊学第16号,53—54.